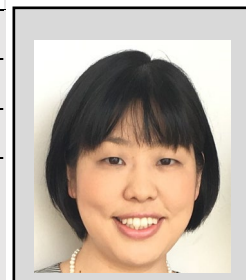


教員についての基本情報

教員名	小川 由美 教授 (OGAWA Yumi)
担当教科	音楽科教育における指導法科目
研究分野	音楽科教育学, 音楽教育実践学
担当授業	スタートアップ音楽, 初等音楽科教育法, 音楽科教育法 A~D, 音楽科実践研究, 教職実践演習, 音楽教育演習 I と II, 卒業研究 A と B, 表現 IA など



授業についての一言
 学校で音楽を学ぶことには、どのような意味があるでしょう。音楽の学びでは、感性を働かせた問題解決が図られ、音楽的思考（こういうイメージが伝わるように演奏しよう）が生まれます。感性は働かせることで磨かれ、思考することで創造性は発達します。授業では、心に直接響く音楽だからこそできる学びについて、実践を踏まえた演習を通して考えていきます。

研究者データベース https://kenkyushadb.lab.u-ryukyu.ac.jp/html/100000112_ja.html

研究の内容

主だった研究テーマは、「子どもの目線に立った授業デザイン」「郷土の音楽の教材化」です。前者のテーマでは、子どもが主体的にイメージや感情を〈表現〉し、音や音楽と相互作用する音楽科授業モデルの構築、子どもの立場に立った授業研究などに取り組んでいます。後者のテーマでは、沖縄の郷土の音楽が持つ地域教材としての価値に注目した、子どもの内面に根差した郷土の音楽の教材開発を行っています。

これまでに研究室で取り組まれた卒業研究の内容

- 卒業研究では、音楽教育に関わる様々なテーマで研究をしています。音楽と人との関係を読み解きながら、学生たちと一緒に学びの意味を日々問い直しています。（以下は卒業研究の一例です）
- 音楽科授業に「チーム」を取り入れることの可能性：中学校での創作活動を通して
 - 沖縄のわらべうたの歌唱教材としての可能性：歌詞内容と音楽的特徴との関わりに着目して
 - 教科横断的な学習の実現を支援する参考資料の作成：音楽科と他教科相互の学びの深まりに着目して
 - 音楽科授業における評価ツールの提案：社会情動的スキル・認知的スキルの相互作用的発達を踏まえて
 - 小学校音楽科授業における学びのユニバーサル・デザインの枠組みの提案

研究のキーワード

子どもが楽しむ音楽科授業デザイン, 地域・郷土の音楽の教材化など



音楽から感じたことを〈表現〉する鑑賞の一例：学生作成の図形楽譜

研究室の様子

研究室には、3年生、4年生、教職大学院の大学院生が所属しています。音楽教育専修では、卒業研究に論文研究と演奏研究があり、この研究室では論文研究を行っています。卒業研究のテーマは、学生個々の興味や関心に沿って設定され、ゼミの仲間と交流しながら、それぞれの研究計画に合わせて研究を進めています。音楽の学びを中心に置きながら、他教科との関連、ユニバーサル・デザインとの関連など、その研究内容は多岐にわたります。ゼミ生の多くは、小中高の教員になり、なかには進学をする学生もいますが、日々ゼミの仲間と励まし合いながら切磋琢磨しています。